

HOLSTEINWORLD

World Dairy Expo by Julie Ashton (2015年11月)

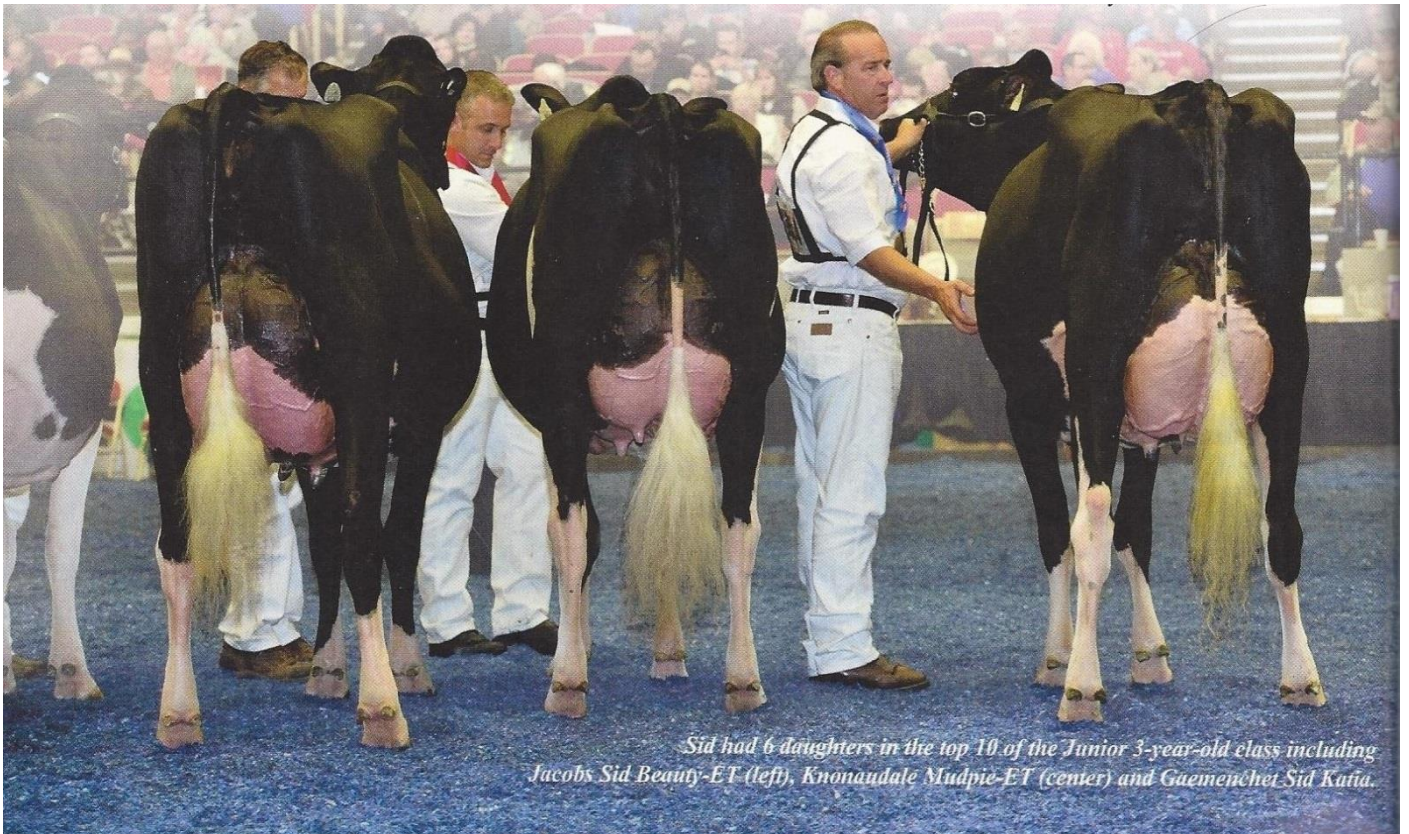
200H2137 シド キングを退座させる

今年のインターナショナル ホルスタイン ショウは、本当に記録に残るものだった。深く、質の高い未經産牛及び経産牛クラスは数々の種雄牛によって作出された美しい娘牛によって脚光を浴びた。ブレードール ゴールドウィンが長年特にこのカラード シェイピングにおいてショウ勝利牛の父であり続けた一方、今年は新たなプレミアム サイアーが現れた。200H2137 パイン ツリー シド ET である。

ウェストウッド HC ルディー ミッシー ET (3E-92 GMD DOM) ファミリーの出身であるシドは、EX90 DOM のフィンリー娘牛から誕生したミスター サム息牛である。このファミリーが大きなインパクトを与える種雄牛を生産することで良く知られる一方、シドは毎年ショウリングで素晴らしい成績を残す高タイプの娘牛を生産する事に突出した。

Semex の Showtime[™] プログラムの下で販売されたシドは、彼の最初のオールアメリカン ノミネート牛を2010年に送りだし、2012年にはもう一頭のノミネート娘牛が続いた。その次の年は彼が大ヒットした年だった。彼は六頭のオールアメリカン ノミネート牛を作出し、インターナショナル ホルスタイン ショウでは上位10位以内に10頭の娘牛が入った。同じ年シドは、オールアメリカン コンテストにおいてオールアメリカンヤリザーブオールアメリカンなどの賞を複数勝ち取った娘牛を得た種雄牛の中で唯一の非ゴールドウィン息牛だった。

2014年のマディソンにおいて、シドは再び上位10位以内に10頭の娘牛を送り出した。彼はまた更に六頭のオールアメリカン ノミネート牛をその履歴に加え、その内の四頭は非常に競争率の高いジュニア2歳クラスのものだった。そのクラスでは、ライアン ブー シド モリー VG89 が満場一致のオールアメリカンに選ばれた。



Sid had 6 daughters in the top 10 of the Junior 3-year-old class including Jacobs Sid Beauty-ET (left), Knoonaudale Mudpie-ET (center) and Gaemenchet Sid Kutia.

シドはジュニア3歳クラスの上位10位内にジェイコブズ シド ビューティー ET (左)、ノーナウデル マッドパイ ET (中央)、ガメンシェ シド キャキタを含む六頭を送り出した

シド娘牛によって競争率の高い結果が得られた充実の数足を踏まえ、2015年は彼の年であることが知られた。未経産牛のショウにおいて、シドは上位10位以内に七頭の娘牛を得、それにはジュニアチャンピオンのゴールドデン オークス シド チャーリース (C&J Hill, F&D Borba, F Connelly and T&S Merwarth 所有、メリーランド州サーモント) がいた。

シドが特に輝きを放ったのは経産牛クラスだった。シドは三頭のクラストップを含む14頭の娘牛を上位10位内に生んだ。ジュニア3歳クラスでは上位10頭の内六頭がシド娘牛であり、インターミディエイトチャンピオンのジェイコブズ シド ビューティー ET VG89 (Eaton Holsteins and B&C Murphy 所有、ニューヨーク州マリエッタ) もその一頭だった。リザーブ インターミディエイト チャンピオンもまたシド娘牛のバージェロイ シド アンベル VG88 (バージェロイ ホルスタイン Inc. 所有、ケベック州サン サミュエル) だった。

依然としてゴールドウィン娘牛がこのショウを支配したにもかかわらず (上位10位以内に25頭)、シドの三頭のクラストップ牛は彼をトップへ押し上げ、ゴールドウィンの七年に渡る王座君臨の期間を終わらせた。

そしてこれは確かに我々が彼から話を聞く最後の年ではない。過去二年間が彼の娘牛の質をほのめかすものであるならば、これは単にシドの支配の始まりかもしれない。また、ホルスタイン ワールドの1・2月号を見逃してはならない。彼は今年何頭のオールアメリカン ノミネート牛を追加するだろうか！□

(Holstein World 誌 2015年11月号より)